

3 F 第3展示室「夢の跡」

"こんな夢を見た"

ではじまる8つの物語。

ご覧になった事のある方、沢山いらっしやと思います。

90年の作品、私は幼い頃に家族で見た記憶があります。いかりや長介さん、寺尾聡さん、沢山の有名な方がご出演されており、我らがタナチューこと、田中忠三郎先生が衣装提供されたものを三階に展示させて頂いています。



先日の講話会にもありましたが、忠三郎先生は中学生の頃に黒澤監督の映画に出逢い、それから"我が青春に悔いなし"という言葉に支えられ、過ごしてこられたそうです。

それから何十年も経て、黒澤監督の夢に出てきた映像が忠三郎先生の民具とぴったりマッチするなんて！

本当は忠三郎先生と黒澤監督が細い糸で繋がっていたんだということに、なんだかわからない不思議さと素晴らしさを感じずにはられないのは私だけでしょうか??

民具提供の代わりに報酬を支払うと言われた監督に対して、忠三郎先生は"私は監督の作品に支えられ今までこれだ。だからいりません！結構です！！と仰ったそうです。

監督はその言葉にまた感動され、夢の原画、映画の中で使われた民具等を全て、忠三郎先生にプレゼントされたそうです。

それが今ミュージアムで展示させて頂いているものなのです。



なんだかいい話でしょう?そういった成り行きを知って作品をご覧頂くと、また違った感じを受けられるかもしれませんね。

黒澤監督はあまりお手紙を書かれる方ではないそうです。そんな監督が直筆で忠三郎先生に宛てられたお手紙も展示してあり、いかに黒澤監督にとって忠三郎先生が"記憶に残る"方だったのかという事が感じられます。

その後またミュージアムの他の展示をご覧頂ければ、忠三郎先生の想いや、展示一点一点がよーく見えてくるかもですよ!!

アミューズミュージアム七不思議の一つ。

"なぜ、マネキンは後ろ向きに展示してあるのか..." 私がずっと考え、答えがでない問題の一つです。



これは解明の余地ありますね！！みなさんは何故だと思われませんかー？是非解明したいですね！

そして黒澤監督の原画。

さすが世界の黒澤監督だけに、見る夢も凄いなあと思います。私の夢なんて...

なぜかガソリンスタンドで働いていて、窓の拭き方が悪い？と、お客さんに拳銃で三発打たれ、よけたつもりが全部腹部に命中したという夢でした...

原画を書けるものではなく、とうてい映画にできるものでもありません...

ああ...

あんな夢をみたい...

ゆきさん今日の一句

書けぬなら

書くまで待とう

夢千夜

なんだかいい句にまとまった??

AM staff (2010年1月15日 15:41)
カテゴリ:施設紹介, 織り姫日記, エピソード

田中忠三郎名誉館長からのメッセージ

アミューズ ミュージアムの名誉館長でもあり、アミューズ ミュージアム内に展示されている刺し子、BORO、そして様々な古民具を、民俗学研究のかたわら40年以上に亘って収集し続けてこられた田中忠三郎先生から、ミュージアム開館に際して、メッセージを頂きました。

※田中忠三郎先生の詳しいバイオグラフィーは[こちらから \(Wikipedia\)](#)

<メッセージ全文>

「11月1日から浅草のアミューズ ミュージアムで、田中忠三郎コレクション展が公開・展示されるという。それは、田中個人のものであろうか、いや、そうではない。

それらは、今から100年～200年前の雪国、青森の娘さん達が丹念に刺し綴って作った晴れ着、仕事着である。そんな着物と一緒に、それらを綴った人達の魂が、楽しくて嬉しそうに東京、浅草へ遊びに来ている。お爺ちゃんやお婆ちゃんが、「こんなものが、東京に出てきたら笑われるのではないかと、心配し恥じらいながらも浅草を訪れ、訪れてくれた多くの人達と話をしたいのです。

雪国、青森の冬は厳しい。暖かい衣服がないと暮らして



いけない。自分の体を暑さ、寒さから守ってくれるのは身を包む衣服だった。そのために衣服を大切に
した。でも、その衣服でさえも、デパートも呉服屋もなかった時代、自分で作らなければいけない。麻
を植え、育て、それを刈り取って糸にして布を織り、それから着物を作る。一本の糸、小さな布でも大
切にして作られたのが、そんな仕事着や晴れ着だった。冬の夜、寒さ厳しい中で、継ぎ足した衣をま
と、親子が肌を寄せ合って眠った。人はそれをボロ着物、ボロ布団というが、それはボロではなく人の
優しさだった。

そんな優しい人達が大切に作った道具たちにも、見て触れて頂きたい。」

是非、アミューズ ミュージアムで、そんな「やさしさ」や「あたたかさ」に直接触れてみて下さい。
皆様の、ご来館をお待ちしております。

AM staff (2009年10月27日 10:51)
カテゴリ:エピソード

田中先生の著書

皆さん、始めまして。
チーム織り姫のまおです。

アミューズ ミュージアムではパフォーマーとして、機織りの実演や手踊り、
他にも沢山面白い事をライブで表現していきますので、楽しみにして下さい(^-^)
ブログでは、アミューズ ミュージアムの事はもちろん、
日本の素敵な所や大切にしている事や、浅草のオススメスポット等、
色々を紹介させていただきますので、よろしくお願いします！

早速、第一回目に紹介させて頂くのは、こちら。

アミューズ ミュージアム2階のギフトショップで販売している本をご紹介します♪

タイトルは「物には心がある。『消えゆく生活道具と作り手の想いに魅せられた人生』」



私はタイトルだけで、グッときてしまいました。

こちらは、アミューズ ミュージアムのオープニング企画として
「布を愛した人たちのものがたり展」を展開しているのですが、
それらをコレクションした田中忠三郎先生が
アミューズミュージアム開館に合わせて書き下ろされた本です。

とにかく、温かい本です。

日本人の魅力を改めて感じました。

田中先生が古墳の発掘やBOROの収集をしていた頃に出会った、
心温かい方々や、日本人ならではの気持ちが詰まっています。
貧しかったけれど、とっても豊かな心を持っていた所とか...

田中先生はいつも、布や民具には、それぞれの想いや生活の喜びや悲しみがあり、
そのモノから感じる気持ち、「心」を大事にする事を伝えたいといけない。
それら全てが「優しさ」なんだと。

ついつい忘れてしまうんですね。
大切な事を。

今まで当たり前だと思っていたこと、気にもとめなかった事までもが、
とても大切な物だと改めて感じる事が出来るきっかけになる本だと思います。

私も、「優しさ」を大事にしていきたいと改めて思いました！

そう感じてから展示品を見たら、前にも見たことがあった物からも違ったモノを感じる事が出来ました。

あー、早く皆さんにも体感して頂きたいーい(>0<)

ほんと、今まおが最もオススメしたい本です。
友達にもオススメしちゃった～(^^)



途中にね、
田中先生の若い頃の写真があるのですが、
ちょっと笑ってしまいましたけどね(笑)
今はおじいちゃんだから(笑)
あ、内緒ね(笑)

皆さんも是非チェックしてみてください。
いや、絶対読んでみて下さい！！

優しい気持ちになれるはずですよ。
そして、アミューズ ミュージアムに
遊びに来て下さい♪

お待ちしております～す(^^)